

科目名 Course Name		開講年次	開講学期	曜日・時限
言語表現Ⅱ Language expression Ⅱ		2年	後期	別途、時間割参照
単位数	授業の形態	授業の性格		履修上の制限
1単位	演習	選択	(保育士養成課程選択)	児童フィールドのみ
当該科目の理解を促すために受講しておくことが望まれる科目				
特になし				
同時に履修しておくことが望まれる科目				
特になし				
担当者に関する情報				
氏名	研究室の場所	オフィスアワー		電話番号・メールアドレス
加藤美智子	講義棟1階	授業中に指示します		授業中に指示します
授業の概要				
言語表現Ⅱでは、言語表現Ⅰを踏まえ依田主な児童文化財を用いて言語の獲得環境を整理し、体験することに重点を置く。劇表現が、幼児に対して言語を獲得する上で必要なプロセスであることを実際に学ぶ。				
授業の目標				
①言語習得に欠かせない絵本、パネルシアター、エプロンシアター、人形劇を軸とした媒体のそれぞれの特徴を理解し、技術を会得することで、保育現場に行かせる劇表現を学ぶことができるようにする。 ②人形劇の表現の可能性を模索し、劇が幼児に与える影響を感じ取ることによりそれをまとめることができるようにする。 ④丸玉人形は製作のみに終始せず、劇表現の基本をきちんと体得し人形劇作品を発表することができるようにする。 ⑤幼児が心から開放される時笑顔が広がる。その体験を自主的に行動し体得することができるようにする。				
授業の方法				
製作と実施を主軸に、講義形式を取る。各自がそれぞれのテーマにそって、製作に発表を重ねる。保育現場を意識した実践の授業とする。各自のまとめを提出すること。製作した作品を予定日までに提出する。				
学習の成果（学習成果）				
児童文化財全般についての理解を深めるとともに、特に平面のパネルシアターや絵本などから居講師、立体に移り変わる場面に、幼児がどのような視点で劇表現を観るか、幼児の視点に立って考えることができ、各自が人前で児童文化財を使った表現をすることができる。				
授業のスケジュールと内容				
第1回目	平面から立体へ～さまざまな人形劇媒体を知る			
第2回目	牛乳パック人形の制作①（題材を決める）			
第3回目	牛乳パック人形の制作②（切る、装飾する）			
第4回目	牛乳パック人形の製作③（演じ方の工夫）			
第5回目	牛乳パック人形の発表（半立体の人形劇）			
第6回目	人形劇製作①（丸玉人形のプラン及びイメージイラストを作る）			

第7回目	人形劇製作②（丸玉人形のパーツを作る）
第8回目	人形劇製作③（丸玉人形の全体と細部を作り、バランスをみる-1）
第9回目	人形劇製作④（丸玉人形の全体と細部を作り、バランスをみる-2、演技方の工夫）
第10回目	人形劇発表①（実際に舞台や効果音を使った発表）
第11回目	人形劇発表②（実際に舞台や効果音を使った発表、演技方の工夫）
第12回目	手作り絵本の制作①
第13回目	手作り絵本の制作②（描く、色づけ）
第14回目	手作り絵本の制作③（装飾、読み方の工夫）
第15回目	人形劇、手作り絵本の発表など表現媒体を使った発表～まとめ～

成績評価の方法と基準

評価の領域	割合	評価の基準
授業参加態度	20%	指示された純備品は事前に準備して授業に臨んでいる。成果物はテーマのもとに製作する。発表は積極的に臨む。授業は私語を慎み真剣に臨む。欠席は理由所を提出のこと。遅刻早退は理由を述べること。
レポート	30%	各自がまとめたノートまたはファイルを指示された時期に提出する。
調査報告書		
小テスト		
試験		
発表内容（態度含む）	50%	授業は真剣に望み、実践を多く踏むために、発表に積極的に臨むこと。
その他		

教科書と参考図書

授業担当者より適宜指示、または資料などを配布する。

履修上の留意点・ルール

授業には、真剣に勝つ真面目に臨むこと。無断欠席は認めない。必要なものは必ず準備にて授業に臨むこと。作品は必ず提出すること。